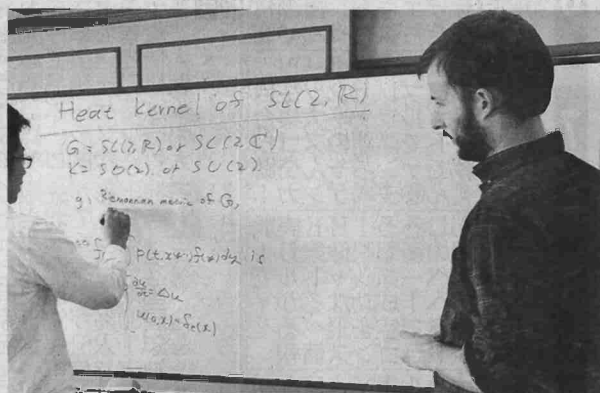


翼なくつゝ日 巴ロン

滋野清武 第1次大戦仏軍で最高勲章

滋野清武氏 陸軍名古屋鎮台の司令官だった男爵の子に生まれる。広島陸軍幼年学校を中退。28歳でフランスに留学し、万国飛行免状を取得。42歳で死去した。再



①自ら設計した飛行機「わか鳥号」に腰掛ける滋野清武氏。©クリスチャン・ポラック コレクション
②奨学金を使って来日し、名古屋天大学院の学生と数式の意見を交わすフランス人学生。名古屋天大学院で(フランス大提供)

ランス大が奨学金、名大と交流

第1次世界大戦中、フランス空軍に従軍してドイツ軍と戦った名古屋生まれのパイロットがいた。現地で「バロン(男爵)」と呼ばれた滋野清武氏。100年の時を経て、名古屋市姉妹都市でフランス北部ランス市の大学が、名古屋大との交換留学を進めるため「滋野清武奨学金」を創設し、両国の学生を結ぶ懸け橋として再び脚光を浴びている。

(谷悠己)

滋野氏は一八八二(明治十五)年、陸軍幹部だった父の名古屋赴任中に生まれた。日本人が初飛行に成功した一九一〇年、航空先進国だったフランスに留学し、操縦技術を習得した。
「バロン滋野の生涯」(文芸春秋、平木国夫著)によると、妻が病死し失意の底にいた滋野氏が、知人から「自殺するなら飛行機乗りになるのが近道だ」と言われて発奮し、航空分野に興味を抱いたとされる。

再渡仏中の一四年に第一次大戦が勃発すると、仏軍入隊を志願。日本の飛行雑誌関係者が「東洋人における最初の宙返り飛行をなしたる人」と評した操縦術を駆使し、五機以上の敵機を撃墜して「エース・パイロット」の称号を受けた。一五年八月のある日、ドイツ軍占領下だったランス市上空を偵察中、地上から砲撃を受けた。持ち前の操縦術でかわした砲弾は五百六十二発。仏軍部から「勇気と感嘆すべき意思力」と評価され、最

高勲章のレジオン・ドヌールを授けられた。

滋野氏が病氣療養のため仏軍から退いて百年後の二〇一七年。第一次大戦で壊滅したランス市と第二次大戦で市街地が破壊された名古屋市は、戦禍からよみがえった共通項や美術館同士の交流が縁で姉妹都市になった。

もともと数学の研究分野を通じて名大と交流があったランス・シヤンパーニュ・アルデンヌ大は昨年、姉妹都市協定を機に学生同士の留学も活発化させようと奨学金を創設。冠名にする象徴的な人物として、滋野氏に目を付けた。

第一号として昨年、数学を研究する名大院生三人とランス大大学院生一人が互いの大学へ十五日間の短期留学をする旅費と滞在費に相当する千八百七十円(約二二万円)を支給した。その一人で名大院修士二年の豊田祥史さん(三三)はフランス滞在中、現地の研究者らと意見交換を重ねる中で論文執筆のヒントを得た。「あの経験で自分の中の何かが変わった。滋野氏がつくってくれた縁に感謝したい」と話す。

ランス大は一九年度、名大などと共同で国際数学研究会を現地で開催するほか、奨学金の対象を名古屋市立大生に拡大することも検討。ギヨーム・ジエレ学長は取材に「滋野氏は名古屋とランスに古くから縁があったことを物語るシンボル。奨学金を軸に交流を深めたい」と語った。